

平成29年度

山形県公立高等学校入学者  
選抜学力検査成績概況

平成29年6月

山形県教育委員会

<目 次>

国 語

1 結果の考察 . . . . . 1  
2 今後の学習のポイント (授業改善のポイント) . . . . . 1  
問題別正答率 (%) . . . . . 2

社 会

1 結果の考察 . . . . . 3  
2 今後の学習のポイント (授業改善のポイント) . . . . . 3  
問題別正答率 (%) . . . . . 4

数 学

1 結果の考察 . . . . . 5  
2 今後の学習のポイント (授業改善のポイント) . . . . . 5  
問題別正答率 (%) . . . . . 6

理 科

1 結果の考察 . . . . . 7  
2 今後の学習のポイント (授業改善のポイント) . . . . . 7  
問題別正答率 (%) . . . . . 8

英 語

1 結果の考察 . . . . . 9  
2 今後の学習のポイント (授業改善のポイント) . . . . . 9  
問題別正答率 (%) . . . . . 10

資 料

平成29年度山形県公立高等学校入学者選抜実施状況

(入学定員・入学志願者数・合格者数等)

1 年度別比較 . . . . . 11  
2 課程別・学科別 . . . . . 12  
3 推薦入学者選抜実施状況 . . . . . 13

# 国 語

## 1 結果の考察

### (1) 学習の成果がみえる問題

㊦の問六のⅠは、文脈に即して登場人物の心情をとらえ、表現する力をみる問題だが、正答率が6割を超えており、学習の成果がみえる。今後も場面の展開や登場人物などの描写に注意しながら、理解した内容を適切に表現することに取り組むことが大切である。㊧の問二は、話し合いの話題や方向をとらえ、的確に話す力をみる問題だが、正答率が9割を超えており、「話すこと・聞くこと」の力がしっかりと身に付いていることがうかがわれる。㊨の作文は、短歌から読み取った内容を踏まえ、題に即して自分の思いや考えを的確に表現する力をみる問題である。短歌から読み取った内容を自分の思いや考えと関連させて表現する力に課題がみえるものの、約8割の受検者が9点以上得点しており、「書くこと」についての基本的な力は身に付いていることがうかがわれる。社会生活の中から様々な課題を設定し自分の考えをまとめることや、伝えたい事実や事柄を明確にして文章の構成を工夫することに取り組みたい。

### (2) 課題がみえる問題

㊦の問二は、品詞についての基礎的な知識・理解をみる問題だが、正答率が5割程度と低く、課題がみえる。単語の類別や助動詞の働きについて理解できる力を身に付けたい。㊦の問四、問六、問七は、文章と資料(図表)を関連付けて読むことによって、文章に書かれた内容を正確に理解したり、要旨を的確に表現したりする力をみる問題であるが、いずれも正答率が低い。文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むことに取り組むことで書き手の考えをとらえ、それを的確に表現できるような学習を心掛けたい。㊧の問五(2)Ⅱは、文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、表現する力をみる問題だが、正答率が4割程度と低く、課題がみえる。㊨の問三、問四の正答率は共に良好であり、古典を読む基本的な力は身に付いていることがうかがわれるので、登場人物や作者の思いなどを想像することを通して、古典の世界に一層親しむようにしたい。

## 2 今後の学習のポイント(授業改善のポイント)

### (1) 国語を適切に表現し、正確に理解することができる

基礎的・基本的な技能の向上を図りながら、伝える内容を適切に表現することや、他者が伝えたい内容を正確に理解することができる。

### (2) 主体的に読書に取り組むことができる

読書を通して知識を広げたり、自分の考えを深めたりすることができるよう、計画的に図書館を活用するなどして、主体的に読書に取り組むことができる。

### (3) 授業者は「付けたい力」の定着を図る授業計画と評価の工夫を

授業者は、単元の重点を明確にした年間指導計画を作成するとともに、生徒の主体性を引き出し、言葉による見方・考え方の質を高める学習課題の設定と言語活動の充実を図りたい。その上で、各単元において「付けたい力」が定着したかどうかを具体的な評価方法に基づいて適切に評価し、指導の改善につなげたい。

国語問題別正答率(%)

(全日制の課程の全受検者から5%を抽出)

問	正	答	配点	備考
一	a さ(いて) 96.8	b ほん 97.7	27	問五 例以外にも多様な表現ができるので、積極的に評価すること。 問七 例以外にも多様な表現ができるので、積極的に評価すること。
	ア 10.5			
	未吉が腕組 62.1			
	(例) めがねを掛けたツネが、薄暗い部屋の中にいるのに「眩しい」と言ったこと。 77.8			
	(例) ツネの目が悪かったことを知り、とても驚いている気持ち。			
	I (例) 字が読めるようになりたい 68.2	II せがんでいる 57.1		
	(選択問題)			
X (例) 人柄や心情が読み取りやすくなる。				
Y (例) 人間関係や場面の状況が読み取りやすくなる。				
			完 解 14.6 50~99% 26.8 1~49% 16.0	
二	a うは(つて) 98.8	b ぼうだい 96.5	27	問四 すべてできて正答とする。順序は問わない。 問六 例以外にも多様な表現ができるので、積極的に評価すること。
	① オ 50.1	② イ 38.2		
	ウ 71.7			
	ア、イ 56.3			
	(例) 今までにない新しいものをつくり出すような仕事には、瞬間的に考えを思い浮かべる 69.4			
	(例) コンピュータに置き換えられてしまうような浅い思考ではなく、関係する多数の知識を組み合わせて新たな知識をつくり出す深い思考で仕事をするこ			
	と。			
A エ 35.0	B イ 60.1			
			X選択 54.2 Y選択 37.0 無答 8.7 X 64.0 Y 53.5	
三	く 94.8		15	問五 II 例以外にも多様な表現ができるので、積極的に評価すること。
	ア 57.4			
	(例) 雉のかしらの毛で作った衣服の、大変はなやかな様子。 68.8			
	エ 88.0			
	(1) ウ 78.4			
(2) I (例) まね 70.6	II (例) 自ら進んで儉約の姿勢を示す 42.3			
四	1 管 86.0	2 勇(ましい) 76.4	13	
	4 砂 糖 86.3	5 逆境 67.6		
	イ 92.1			
		3 寸劇 53.4		
五	【評価の観点】		18	◇ 採点基準は、【評価の観点】を踏まえ、各学校において適切に設定すること。 ◇ 採点は2名以上で行い、それぞれ18点満点とすること。 ◇ 採点者は全答案を通して採点し、評価、評点のゆれがないよう留意すること。 ◇ 評点は、各採点者による点数を平均(端数切り上げ)したものとすること。
	(1) 内容			
	○ 選んだ短歌から読み取った思いや考えが、短歌の表現を取り上げて明確に述べられているか。			
	○ 「わたしの将来」という題に即して、将来に対する自分の思いや考えが明確に述べられているか。			
	(2) 構想・叙述			
○ 二段落で構成されており、第一段落には、選んだ短歌から読み取った思いや考えが短歌の表現を取り上げて述べられ、第二段落には、第一段落を踏まえ、将来に対する自分の思いや考えが明確に述べられているか。				
○ 文章の組み立てや展開が適切で、全体のまとまりがあるか。				
○ 叙述の仕方が的確で、工夫がみられるか。				
(3) 書写・表記				
○ 文字が正しく、整っており、表記が適切であるか。				
			14点~18点 15.2 9点~13点 63.3 5点~8点 16.6 1点~4点 2.9	
合計			100	

【注意】 1 各小問の配点については、各学校で適正な基準を設けること。  
2 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校の判断によるものとする。

# 社 会

## 1 結果の考察

### (1) 学習の成果がみえる問題

①の問2は、世界地図を活用する力をみる問題だが、正答率が7割を超えている。授業において、世界地図を活用した学習が十分に行われていることがうかがわれる。⑤の問3は、資料を読み取り適切に表現する力をみる問題だが、正答率が7割を超えており、国民の政治参加について、理解と関心が深まっていることがうかがわれる。⑥の問3(2)は、国の税収についての資料をもとに、思考・判断したことを表現する力をみる問題だが、正答率は④所得税を選択した受検生が8割、⑤消費税を選択した受検生が7割であり、税の意義や税制度についても理解と関心が深まっていることがうかがわれる。③の問2、④の問2、⑤の問2(2)は、基礎的な知識を問う問題だが、正答率が高く、日常の学習において、基礎的・基本的な知識や技能の習得が図られていることがうかがわれる。

### (2) 課題がみえる問題

③の問2(2)、問3(1)は、各時代の政治、社会の特色をとらえる力をみる問題だが、正答率が低く、課題がみえる。高等学校からは「他の事象と混同した解答がみられた」「内容が不十分な解答が多かった」との報告が寄せられている。ある事象についてその意味や意義を理解するだけでなく、事象間の関連を説明したり、意見交換したりするなどの学習活動を大切にしたい。③の問3(2)、④の問5は歴史の流れを問う問題だが、正答率が低く、課題がみえる。我が国の歴史の大きな流れを、各時代の特色を踏まえて理解したい。⑤の問1(2)は地方自治のしくみを問う問題だが、正答率が低かった。単に知識を身に付けるだけでなく、国の政治制度を地方自治のしくみと比較、関連させて学習することが大切である。⑥の問1(2)は基礎的な知識を問う問題だが、正答率が低かった。個人と社会とのかかわりを中心に理解を深め、現代社会についての見方や考え方の基礎を身に付けるとともに、社会の諸問題に着目することが大切である。

## 2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

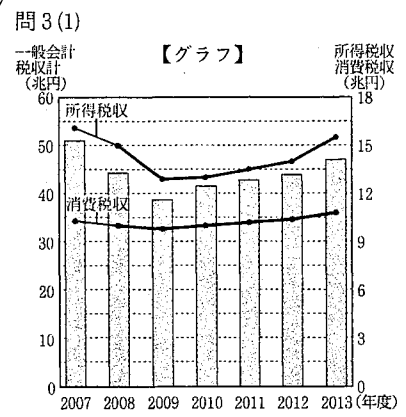
(1) 単に知識を身に付けるだけでなく、観察や調査、見学などの体験的な活動などを通して、主体的に学習に取り組むことができる

身近な地域における事象について、観察や調査などの活動を行い、地域の課題を見いだすなど、主体的に学習に取り組むことができる。また、持続可能な社会を形成するという観点から、よりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探究し、自分の考えをまとめることができる。

(2) 授業者は、多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる協働的な学びの充実を

授業者は、課題解決に向けて予想を立てたり解決のための方法を見いだしたりする場や、根拠をあげて話し合う場を設定するなど、生徒が多面的・多角的に思考・判断し適切に表現するような協働的な学びの充実を図りたい。

問	正 答	配 点	備 考
1	問1 ③ → ① → ④ → ②	91.8	問1 全部できて正答とする。
	問2 ア	75.2	
	問3 ウ	52.8	
	問4 エ	46.1	
	問5 標準時	46.6	
	問6 (例) 1993年には鉱産資源の輸出が多かったが、2014年には機械工業製品の輸出が増えた。	83.1	
	問7 (資料V) B (国) (資料VI) A (国) (資料V) 73.5 (資料VI) 71.4		
2	問1 (番号) ⑤ (県名) 三重 (県) (番号) ⑥ (県名) 滋賀 (県)	66.5	問1 順序は問わない。番号と県名が両方できて正答とする。 問2(2) 「河川に流れる水の量を調整すること。」などでもよい。
	問2 (1) オ (2)(例) 水力発電を行うこと。	60.9 79.3	
	問3 (1) イ (2)(例) 温暖な気候で、水はけのよい土地。	78.1 60.3	
	問4 (a) 埋立 (b) (例) 騒音 (a) 50.7 (b) 39.9		
	問5 (中部地方) エ (近畿地方) ウ (中部地方) 53.4 (近畿地方) 51.0		
3	問1 (1) 天平文化 (2)(例) 仏教によって国家を守ること。 (3) イ, オ	61.2 75.2 73.2	問1(3) 順序は問わない。 問3(2) 全部できて正答とする。
	問2 (1) 足利義満 (2)(例) 営業を独占すること。	80.8 31.8	
	問3 (1)(例) 身分の上下を重視する学問だから。 (2) エ → ウ → ア → イ	19.5 35.0	
4	問1 ウ	63.8	問5 全部できて正答とする。 問6 「バンドン会議」でもよい。
	問2 学制	83.7	
	問3 (例) 大日本帝国憲法では主権は天皇にあるが、日本国憲法では主権は国民にある。	82.5	
	問4 ア	68.5	
	問5 ウ → イ → ア → エ	53.6	
	問6 アジア・アフリカ会議	45.5	
5	問1 (1) 条例 (2) 二元代表 (3) ア	77.8 12.5 66.5	問3(1) 【グラフ】
	問2 (1) エ (2)(a) 与党 (b) 野党 (3) ウ	75.8 (a) 87.8 (b) 93.6 81.0	
	問3 (例) 選挙権を得られる年齢が20歳から18歳に引き下げられたから。	78.1	
6	問1 (1) イ (2) 労働関係調整法	70.6 44.6	問3(1) 【グラフ】
	問2 (1) エ (2) 生存権	80.5 89.8	
	問3 (1) (備考欄に示す。) (2) 《選択問題》 ④ (例) 一般会計税収計と比べて、所得税も同じように変化している。 ⑤ (例) 一般会計税収計と比べて、消費税収に大きな変化はみられない。	85.4 81.0 68.1	
		選択率 ④53.9 ⑤43.4 無答率 2.6	
		合計 100	



[注意] 1 各小問の配点については、各学校で適正な基準を設けること。  
2 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校の判断によるものとする。

# 数 学

## 1 結果の考察

### (1) 学習の成果がみえる問題

①の5は、平行四辺形の基本的な性質を表現する力をみる問題だが、正答率は④、⑤共に6割を超えており、学習の成果がみえる。図形の性質を論理的に考察し表現できるようにしたい。②の1(1)、③の1(1)は、関数の変化や対応の様子をとらえる力をみる問題だが、正答率は共に7割を超えており、学習の成果がみえる。関数について、表や式、グラフなどを相互に関連付けて理解することが大切である。②の2(1)は、方程式を活用する力をみる問題だが、正答率は8割を超えており、学習の成果がみえる。一方で、高等学校からは「何を $x$ で表すのかが示されていなかった」という報告が寄せられている。見いだした数量の関係を、 $x$ や $y$ などの文字を用いて式に表現する力を身に付けたい。

### (2) 課題がみえる問題

①の4は、確率を求める力をみる問題だが正答率が低く、課題がみえる。高等学校からは「絶対値の意味が理解できていない」という報告が寄せられている。数学の学習で用いる用語の意味を十分に理解した上で、的確に用いる力を身に付けたい。①の6は、図形的な性質をとらえ作図する力をみる問題だが、正答率が低く、課題がみえる。図形の対称性や図形を決定する要素に着目し、基本的な作図の方法を理解した上で活用する力を身に付けたい。③の2は、グラフの特徴を読み取り、事象を考察する力をみる問題だが、エ、オ共に正答率が低く、課題がみえる。図形をもとにグラフをかく力だけでなく、かいたグラフの特徴をとらえて図形の変化を考察する力も身に付けたい。④の1は、論理的に証明する力をみる問題だが、5割以上得点した受検者は全体の約36.2%であり、課題がみえる。証明の過程において、根拠をもとに筋道を立てて説明することを心掛けたい。

## 2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

- (1) 基礎的・基本的な内容を確実に身に付け、学習したことを活用することができる  
授業での数学的活動を通して、基礎的・基本的な内容について実感を伴って理解した上で、課題解決に向けて結果を予想したり解決のための方法を見いだしたりすることができる。
- (2) 授業以外の日常生活の様々な場面でも、学習したことを活用することができる  
授業の中だけでなく、授業以外の日常生活の様々な場面でも、学習したことを活用して考えたり判断したりすることができる。
- (3) 授業者は、生徒が既習の数学をもとにして活用し、主体的に学習に取り組む態度の育成につながる授業の充実を  
単に基礎的な概念や原理・法則についての理解を深めるだけでなく、既習の数学をもとに、数学を活用して考えたり判断したりする数学的活動を通じて、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学を学ぶことへの意欲を一層高めるような授業を充実させたい。

問	正 答	配 点	備 考							
1	1 (1) 3 96.2 (2) $-\frac{1}{4}$ 84.8 (3) $2x$ 84.0 (4) $6+\sqrt{2}$ 77.8 2 (求め方は略。) $24\sqrt{5}$ 70.6 3 (解き方は略。) $x=-3, x=\frac{1}{2}$ 74.1 4 $\frac{5}{6}$ 43.4 5 《選択問題》 選択率 ① 66.2 ② 31.8 ① (例) 垂直 68.3 ② (例) 等しい 64.2 6 (作図例は右に示す。) 9.0		32							
2	1 (1) $b$ の値 2, $c$ の値 -1 77.3 (2) 1, 8 15.7 2 (1) (例) 春に回収した新聞紙の重さを $x$ kg とする。 $1.5x + 2(17500 - x) = 17500 + 11000$ (例) 春に回収した新聞紙の重さを $x$ kg, 春に回収した雑誌の重さを $y$ kg とする。 $\begin{cases} x + y = 17500 \\ 1.5x + 2y = 17500 + 11000 \end{cases}$ 81.3 (2) 19500 (kg) 33.2 3 (1) <方法> (例) 平行でない2つの弦の垂直二等分線の交点を求める。 (2) $2\sqrt{17}$ (cm) 12.5 (3) ウ 62.4	<table border="1"> <tr> <td>100%</td> <td>10.5</td> </tr> <tr> <td>50~99%</td> <td>9.6</td> </tr> <tr> <td>1~49%</td> <td>2.6</td> </tr> </table>	100%	10.5	50~99%	9.6	1~49%	2.6	28	3(1) 受検者の多様な考えを積極的に評価すること。
100%	10.5									
50~99%	9.6									
1~49%	2.6									
3	1 (1) 12 72.0 (2) ア 9 25.1 イ $4x$ 64.7 ウ $-2x+42$ 5.8 (グラフは右に示す。) 74.3 2 エ 5 5.0 オ $\frac{1}{3}x^2$ 2.0		20							
4	1 <証明> (例) $\triangle ABC$ と $\triangle AEC$ において 1つの円で、等しい弧に対する円周角は等しいから $\angle BAC = \angle EAC$ ..... ① 共通だから $AC = AC$ ..... ② 半円の弧に対する円周角は $90^\circ$ だから $\angle ACB = 90^\circ$ ..... ③ ③より、 $\angle ACE = 90^\circ$ よって、 $\angle ACB = \angle ACE$ ..... ④ ①, ②, ④より、1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しいので $\triangle ABC \cong \triangle AEC$ 2 (1) $2\sqrt{5}$ (cm) 45.5 (2) $\frac{4\sqrt{5}}{11}$ (cm) 0.1	<table border="1"> <tr> <td>100%</td> <td>14.0</td> </tr> <tr> <td>50~99%</td> <td>22.2</td> </tr> <tr> <td>1~49%</td> <td>34.1</td> </tr> </table>	100%	14.0	50~99%	22.2	1~49%	34.1	20	
100%	14.0									
50~99%	22.2									
1~49%	34.1									
		合計 100								

〔注意〕 1 各小問の配点については、各学校で適正な基準を設けること。  
 2 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校の判断によるものとする。



# 理 科

## 1 結果の考察

### (1) 学習の成果がみえる問題

①の問1、②の問1、問2、⑧の問1は、第1分野及び第2分野についての基礎的な知識・理解をみる問題だが、正答率は8割を超えており、学習の成果がみえる。授業で扱う用語を学習し、的確に活用するような学習活動が適切に行われていることがうかがわれる。また、①の問2、④の問2(2)、⑤の問1(1)は、実験についての技能や観察された現象を解釈し表現する力をみる問題だが、いずれも正答率は約8割であった。実験操作を行う意味や現象が起こる理由について正しく理解し、的確に表現する態度が養われていることがうかがわれる。⑦の問4は、学習した知識を日常生活や社会の中でみられる現象と組み合わせて考察する力をみる問題だが、正答率は約9割であった。身近な現象について、学習活動によって得た知識を活用し、科学的に理解しようとする態度を養いたい。日常生活における事物・現象を探究的にとらえ、科学に対する興味・関心をさらに高められるようにしたい。

### (2) 課題がみえる問題

⑤の問2、⑦の問2は、実験結果を読み取り活用する力をみる問題だが、正答率が低く、課題がみえる。目的意識をもって実験に取り組み、実験の結果について思考・考察することが大切である。⑥の問2や⑦の問3も正答率が非常に低く、物質や物体の状態を正しく思考し、科学的に考察することに課題がみえる。イオンの数についてモデルを用いて表したり、物体に働く力について大きさと向きの矢印を用いて表したりするなど、科学的に探究する能力を身に付けられるような学習を心掛けたい。また、②の問3や③の問2(2)、④の問3といった記述問題の正答率も低かった。高等学校からは「現象や状態について、適切な用語を用いて表現できていない」「説明や表現が不十分である」という報告が寄せられている。自然の事物・現象について考えたことを科学的に表現する力を身に付けたい。

## 2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

### (1) 科学的な知識や概念を活用したり、実社会や実生活と関連付けたりできる

科学的な見方や考え方を身に付け、自然の事物・現象に対して活用することができる。実生活の現象において自ら疑問を見つけ、身に付けた概念を活用することで、自ら考えたことを科学的に説明できる。

### (2) 目的意識をもって観察・実験を行い、考察したことを表現できる

観察や実験を行う目的を自ら考えて計画し、観察や実験の結果がどのようになるかを予想した上で、結果について科学的に考察することができる。科学的な概念を使用し、分析して考えたことを自らの言葉で表現できる。

### (3) 授業者は生徒が自らの力で知識を獲得し、理解を深めることができるような授業の工夫を

授業者は、科学的な概念を使用して考えたり説明したりする学習活動を充実させ、生徒の知的好奇心を育てられるよう授業の改善を図りたい。また、実社会や実生活との関連を重視し、基礎・基本となる知識や技能の定着と、科学的な見方や考え方を養うことができるような授業の工夫を図りたい。

問	正 答	配 点	備 考
1	問1 ア	80.5	77.3
	問2 (例) 葉が脱色されるため。	79.6	
	問3 (1) エ	89.5	
	(2) (例) 酸素の割合は小さくなり、二酸化炭素の割合は大きくなる。	25	
2	問1 消費者	97.4	25
	問2 ウ	89.8	
	問3 (例) 食物と消化液を混ぜ合わせるから。	38.8	
	問4 (1) (例) 赤かっ色	64.4	
	(2) イ	66.5	問3 「食物を細かくするから。」などでもよい。 問4(1) 「黄色」などでもよい。
3	問1 (1) ア, ウ, オ	56.9	25
	(2) ウ	79.9	
	問2 (1) 堆積岩	56.9	問2(2) 受検者の多様な表現を積極的に評価すること。
	(2) (例) れきより遠く、泥より近くに広がってたまる。	40.5	
4	問1 エ	53.9	25
	問2 (1) ウ	78.4	
	(2) (例) 天気と風向が変化したから。	79.3	
	問3 (例) 冷たい気団とあたたかい気団の勢いがほぼ同じだから。	42.0	
問4 《選択問題》			問4 受検者の多様な表現を積極的に評価すること。
	Ⓐ (例) 移動性の高気圧が次々と通過していくから。		Ⓐ Ⓑ
	Ⓑ (例) 西高東低の気圧配置になるから。		選択率 32.4 65.9 正答率 64.9 69.5
5	問1 (1) (例) 試験管Aに入っていた空気が多く含まれるため。	80.5	25
	(2) ウ, エ	58.3	
	(3) a 青 b 赤 c 炭酸ナトリウム a 76.7 b 79.0 c 59.5	59.5	問1(3)b 「桃」などでもよい。
	問2 2.5 (g)	20.7	
6	問1 (1) 水酸化物	55.4	25
	(2) b HCl c H <sub>2</sub>	b 57.1 c 53.9	
	問2 C, D	29.7	問2 すべてできて正答とする。順序は問わない。
7	問1 20 (cm)	74.1	90.1
	問2 0.28 (N)	7.6	
	問3 イ	16.9	
	問4 (例) 道具を用いると、より小さい力で持ち上げることができる。		
8	問1 屈折	91.0	25
	問2 エ	76.7	
	問3 ア	58.6	
	問4 (下に示す。)	59.5	
	図2		
	凸レンズの軸(光軸)		
	凸レンズの中心線		
		合計 100	

〔注意〕 1 各小問の配点については、各学校で適正な基準を設けること。  
2 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校の判断によるものとする。

# 英 語

## 1 結果の考察

### (1) 学習の成果がみえる問題

①の3は、まとまりのある英語を聞いて概要や要点を適切に聞き取る力をみる問題だが、正答率はNo.1で7割、No.2で6割を超えており、学習の成果がみえる。授業での言語活動を通じて、基本的な英語の音声の特徴をとらえ正しく聞き取ることだけでなく、話し手が伝えたいことや聞き手として必要な情報を理解できていることがうかがわれる。②の3は、語と語のつながりなどに注意して正しく文を書く力をみる問題だが、正答率はNo.1、No.2共に6割を超えている。正しい語順や語法だけでなく、具体的な場面や状況に合った適切な表現で文を書く力が定着していることがうかがわれる。④の5は、例年に比べ正答率が高く、学習の成果がみえる。読んだ事柄について英語の問いに英語で的確に答える力が定着していることがうかがわれる。

### (2) 課題がみえる問題

②の1はNo.1からNo.3まで例年に比べ正答率が低く、課題がみえる。単に語彙や文法事項などについての知識だけでなく、授業での言語活動などコミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力を身に付けることが大切である。③の1-WやY及び3についても正答率が低く、課題がみえる。高等学校からは3の誤答について、「イヤエを選んだ受検者が多かった」との報告が寄せられている。図や表と照らし合わせながら、会話文から必要な情報を的確に読み取ったり、内容や考え方をとらえたりする力を身に付けたい。また、④の3、4、6についても正答率が低く、課題がみえる。登場人物の考えや心情など、書かれた内容を適切に理解することに加え、一語一語の意味や一文一文の解釈など内容の特定部分にのみとらわれることなく、話がどのように展開していくのかなど、大まかな流れをつかみながら読み取る力を身に付けたい。

## 2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

### (1) 英語を聞いたり読んだりしたことをもとに、自らの考えや気持ちなどを英語で伝えることができる

単に聞いたり読んだりできるだけでなく、授業での言語活動で「読むこと」や「聞くこと」を通して学んだことについて、自分の考えや気持ちなどと結び付けながら活用し、話したり書いたりして英語で発信することができる。

### (2) 学習した表現を使いながら積極的にコミュニケーションを図ることができる

授業での言語活動において、言語の働きを踏まえて、相手の考えを理解したり、学習した表現を使いながら積極的に自分の考えを伝えたりすることができる。

### (3) 授業者は、生徒の実態や「付けたい力」に応じた指導計画の改善と、教科書の題材や内容を活かした4技能を統合的に活用させる言語活動の充実を

授業者は、評価基準を生徒と共有し、「CAN-DOリスト」に基づいた指導方法の工夫・改善を図りたい。また、単に知識等を得るのにとどまるのではなく、4技能を統合的に活用できる授業づくりをさらに充実させ、4技能の総合的な育成とコミュニケーション能力の基礎の育成を図りたい。

問	正 答	配 点	備 考												
1	1 No.1 ア 60.2 No.2 イ 57.3 2 ア 40 85.8 イ (例) 古い日本の城 73.0 ウ 図書館 93.6 3 No.1 イ 75.9 No.2 エ 61.6 4 May I ask someone else to join us (?) 87.8	26													
2	1 (1) white 65.4 (2) between 49.7 (3) hundred 35.8 2 (1) ウ 74.7 (2) エ 58.7 3 (1) Do you know your friend got a (prize in the speech contest?) 63.1 (2) (I can) give you the hat if you like (it.) 61.6	18													
3	1 W ドイツ 36.6 X オーストラリア 67.2 Y イギリス 36.3 Z 中国 71.8 2 (例) 世界中の人々が、今日も山形県でつくられた部品を使った車に乗っているということ。 68.6 3 ア, ウ 24.1 49.1	16	3 順序は問わない。												
4	1 (例) 子供を連れて診察室に入るため。 70.1 2 ( a ) 58.4 3 (例) 祖父は大丈夫だということ。 37.2 4 (例) 富田先生を見ていると、医師の仕事についてどのように考えているかがわかったから。 40.4 5 (1) (例) Yes, he did. 70.6 (2) (例) A few days after visiting Dr. Tomita. 52.3 6 ウ → ア → オ → イ → エ 33.4 7 I (例) I want to help (sick people in my town as a doctor.) 55.2 II (例) (But I believe) you can do it (!) 43.9	30													
5	《選択問題》 ㉠ (例) This is your chance to talk in Japanese. You should tell your host family about it. They will understand and help you. You will be able to learn things that you can't learn in your country. ㉡ (例) You don't have to eat the food. Your host mother wants you to enjoy many kinds of food. She won't be happy if you eat something you don't like. Tell her about it, and enjoy your homestay.	10	受検者の多様な表現を積極的に評価すること。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>選択率</th> <th>正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A選択</td> <td>55.8</td> <td>82.7</td> </tr> <tr> <td>B選択</td> <td>35.2</td> <td>75.2</td> </tr> <tr> <td>無選択</td> <td>9.0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		選択率	正答率	A選択	55.8	82.7	B選択	35.2	75.2	無選択	9.0	
	選択率	正答率													
A選択	55.8	82.7													
B選択	35.2	75.2													
無選択	9.0														
		合計 100													

(注意) 1 各小問の配点については、各学校で適正な基準を設けること。  
 2 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校の判断によるものとする。

# 平成29年度山形県公立高等学校入学者選抜実施状況 (入学定員・入学志願者数・合格者数等)

## 1 年度別比較

年 度		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
中学校卒業生数		10,996	10,862	10,687	10,621	10,608	
全 日 制	県 立	入学定員	7,680	7,560	7,480	7,360	7,240
		入学志願者数	7,808	7,577	7,212	7,366	7,410
		倍 率	1.02	1.00	0.96	1.00	1.02
		合格者数	7,255	7,017	6,800	6,869	6,712
		最終倍率	1.00	0.99	0.96	0.99	1.01
		充足率	94.5%	92.8%	90.9%	93.3%	92.7%
	市 立	入学定員	280	280	280	280	280
		入学志願者数	347	351	346	345	356
		倍 率	1.24	1.25	1.24	1.23	1.27
		合格者数	281	282	281	284	280
		最終倍率	1.24	1.25	1.24	1.23	1.27
		充足率	100.4%	100.7%	100.4%	101.4%	100.0%
	合 計	入学定員	7,960	7,840	7,760	7,640	7,520
		入学志願者数	8,155	7,928	7,558	7,711	7,766
		倍 率	1.02	1.01	0.97	1.01	1.03
		合格者数	7,536	7,299	7,081	7,153	6,992
		最終倍率	1.01	1.00	0.97	0.99	1.02
		充足率	94.7%	93.1%	91.3%	93.6%	93.0%
定 時 制	入学定員	280	280	280	280	280	
	入学志願者数	138	128	127	116	101	
	倍 率	0.49	0.46	0.45	0.41	0.36	
	合格者数	126	116	120	112	98	
	最終倍率	0.47	0.44	0.45	0.41	0.35	
	充足率	45.0%	41.4%	42.9%	40.0%	35.0%	
総 計	入学定員	8,240	8,120	8,040	7,920	7,800	
	入学志願者数	8,293	8,056	7,685	7,827	7,867	
	倍 率	1.01	0.99	0.96	0.99	1.01	
	合格者数	7,662	7,415	7,201	7,265	7,090	
	最終倍率	0.99	0.98	0.95	0.97	1.00	
	充足率	93.0%	91.3%	89.6%	91.7%	90.9%	

(注)

- (1) 倍率＝入学志願者数÷入学定員 最終倍率＝受検者数÷入学定員
- (2) 充足率＝合格者数÷入学定員×100
- (3) 中学校卒業生数は、学校基本調査結果報告書の中学校3学年の生徒数による。  
(平成29年度から中学校3年生の生徒数と義務教育学校9年生の合計数とする。)

## 2 課程別・学科別

課程	区分	入学定員		受検者数		合格者数		
	学科	人数	前年度比	人数	最終倍率	人数	充足率	
全 日 制	普通科	3,880	▲80	4,156	1.07	3,702	95.4%	
	専門教育を主とする学科	理数	120	0	137	1.14	121	100.8%
		音楽	40	0	40	1.00	39	97.5%
		体育	80	0	87	1.09	82	102.5%
		農業	400	▲40	322	0.81	325	81.3%
		工業	1,200	0	1,144	0.95	1,104	92.0%
		商業	600	0	697	1.16	599	99.8%
		水産	80	0	53	0.66	53	66.3%
		家庭	80	0	84	1.05	80	100.0%
		看護	40	0	58	1.45	40	100.0%
		情報	40	0	45	1.13	40	100.0%
	総合学科	960	0	843	0.88	807	84.1%	
	合計	7,520	▲120	7,666	1.02	6,992	93.0%	
定 時 制	普通	200	0	90	0.45	89	44.5%	
	工業	80	0	9	0.11	9	11.3%	
	合計	280	0	99	0.35	98	35.0%	
全定合計		7,800	▲120	7,765	1.00	7,090	90.9%	

(注)

(1) 充足率＝合格者数÷入学定員×100

(2) 入学定員で120名の減は、山形西普通科、新庄南普通科、庄内農業農業科の各1学級減によるものである。

### 3 推薦入学者選抜実施状況（平成29年度）

区分	課程 学科	全 日 制											
		普通	専門教育を主とする学科										総合学科
			理数	音楽	体育	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	
入学定員		3,880	120	40	80	400	1,200	600	80	80	40	40	960
募集人員		—	8	20	56	96	298	120	24	24	12	10	178
志願者数		—	16	37	77	95	392	254	22	28	39	10	184
内定者数		—	9	22	62	80	296	141	22	24	12	10	152
志願倍率		—	2.00	1.85	1.38	0.99	1.32	2.12	0.92	1.17	3.25	1.00	1.03
充足率		—	112.5%	110.0%	110.7%	83.3%	99.3%	117.5%	91.7%	100.0%	100.0%	100.0%	85.4%

区分	全日制
	計
入学定員	7,520
募集人員	846
志願者数	1,154
内定者数	830
志願倍率	1.36
充足率	98.1%

区分	課程 学科	定 時 制		
		普通	工業	計
入学定員		200	80	280
募集人員		—	0	0
志願者数		—	—	—
内定者数		—	—	—
志願倍率		—	—	—
充足率		—	—	—

区分	全日制・定時制 総 計
入学定員	7,800
募集人員	約 846
志願者数	1,154
内定者数	830
志願倍率	1.36
充足率	98.1%

<注>

- (1) 志願倍率＝志願者数÷募集人員
- (2) 充足率＝合格内定者数÷募集人員×100
- (3) 推薦選抜で志願者があった学校  
 全日制：26校（前年26校）  
 66学科（前年66学科）
- (4) 募集人員（実施要項より）  
 理数科：30%以内  
 音楽科：50%程度  
 体育科：70%程度  
 職業に関する学科：30%以内  
 総合学科：30%以内

※募集人員の計は各校で定めた人員を単純に合計したもの